



2019年11月11日

各位

会社名 メディカル・データ・ビジョン株式会社
代表者名 代表取締役社長 岩崎 博之
(コード番号: 3902)
問合せ先 取締役グループ管理本部長 柳澤 卓二
(TEL. 03-5283-6911)

通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、2019年2月12日に公表いたしました通期の連結業績予想を以下の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

売上高については3,840百万円（前回予想4,250百万円）、営業利益及び経常利益については650百万円（前回予想500百万円）となる見込みです。

記

1. 当期の連結業績予想数値の修正（2019年1月1日～2019年12月31日）

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	4,250	500	500	279	6.98
今回修正予想（B）	3,840	650	650	400	9.99
増減額（B－A）	△410	150	150	120	－
増減率（％）	△9.6	30.0	30.0	43.2	－
（参考）前期連結実績	3,577	351	351	69	1.74

（注）当社は、2018年5月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行なっております。1株当たり当期純利益金額は、前事業年度の期首に当該株式分割が行なわれたと仮定し算定しております。

2. 修正の理由

売上高については、①「CADA-BOX」の目標受注件数の未達成、及び、②重点子会社（株）Doctorbook 及び MDV トライアル(株) の新規事業の進捗の遅れにより、前回予想に対し△410百万円の3,840百万円となる見込みです。

一方、利益面においては、利益率の高いデータ利活用サービスのアドホック調査が引き続き順調に伸長するとともに、従業員一人当たりの生産性向上に着手するなどの結果、販売管理費が大幅に抑制されました。これにより、営業利益、経常利益、及び親会社株主に帰属する当期純利益は、前回予想を上回る見込みとなりました。

※上記に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

① 「CADA-BOX」目標受注件数の未達成

2019年12月期における「CADA-BOX」の新規受注目標(計上ベース)は13病院と計画しておりましたが、本日現在の新規受注は1病院となっている状況です。今年度末に向け受注確度の高い数病院への営業活動は進めてはおりますが、本業績修正においては、今期の目標達成は困難であると想定し、売上高への影響を△240百万円とするに至りました。

ただし、当社グループの目的は「CADA-BOX」を拡販させることではなく、あくまでもリアルタイム診療データを集積することです。したがって来期以降は、病院との包括データ利用契約(※)を通じたリアルタイム診療データの取得を進めてまいる計画です。

(※)包括データ利用契約とは、電子カルテシステム内にある診療情報の匿名加工情報を、リアルタイムかつ継続してMDVに提供し、また、MDVがそれを利活用することに対して同意し契約を行うことを指します。

② 重点子会社(Doctorbook 及び MDVトライアル)の新規事業の進捗遅れ

Doctorbook については、既存サービスである歯科領域は順調に推移した一方で、今期新たに開始した医科領域においては、当初想定していたサービスでの売上目標達成は困難と判断し、売上高の影響を△72百万円とするに至りました。医科領域においては現在、次の事業基盤となるドクターアカウント取得に注力しており、当該プロジェクトは順調に進んでおります。

MDVトライアルについては、診療データを活用した治験案件の受注は進み始めたものの、「CADA-BOX」を経由したリアルタイム診療データ収集の遅れを背景に、今期計画の受注は困難と判断し、売上高の影響を△44百万円とするに至りました。一方で、既存で保有するDPCデータを活用した治験関連サービスについては、引き続き製薬会社と受注に向けた協議を進めております。

以 上